

active activity

対話の架橋

第3話

牛尾副市長との対話

R6.1.15 (月)

& 1年間の活動の振り返り



メンバー
文化振興課 河西
市民協働課 藤原
課税課 小笠原
行政総務課 東

目的

入庁10年未満の職員が副市長との対話を通して、市の方針や副市長の思いを聞くことで、業務に対する理解を深める。

対話の内容をご紹介します



Q1 市役所生活で大変だった仕事は？

子育て応援課 相田書記

好きな島田の〇〇：牧之原公園から見る夜景

- ・ 30代で担当した下水道事業。
- ・ 当時は土日でも日付が変わるまで残業した。
- ・ 人間は追いつめられると良くない…
仕事は適度がいいね。



好きな島田の〇〇：
バスケットボールができる「ローズアリーナ」

対話の内容をご紹介します



Q2 効率の良い仕事方法は？

危機管理課 杉山書記

好きな島田の〇〇：初めての勤務先の「田代環境プラザ」

- ・ 仕事の中のことは仕事でしか解決しないと思う。
- ・ やるべきことを書き出して、できたら消していく。
抽象的なモヤモヤを具体的に処理していくと良い。



対話の内容をご紹介します



Q3 道路の新設について副市長の考えは？

建設課 吉田事務員

好きな島田の〇〇：昭米のローストビーフ

- ・ 道路は大切な社会インフラのひとつ。
- ・ 今とは違う社会情勢の中で計画された道路をその通りに作るのではなく、川や橋も含めて、どこを優先すべきか、住民とも話し合って決めていくことが大切。
- ・ 昔と違って住民との合意形成が大切な時代。



参加者の気づき



副市長が静岡県庁へ出向した時、終電で帰って、そこから勉強しての毎日を繰り返して、鍛えられたと聞いてとても印象的で驚いた。とてもユーモアがあるお話をしていただき、とても楽しい対話の時間となった。



総じて回答の際に、大まかに結論を言い、後から細部を詰めていく話し方を聞いて、行政に携わってきた感じがあった。利き手側にもわかりやすく、説得力があった。様々な業務を処理する中で効率的に片付けていく方法を教えていただいた。



自分が仕事をする上で信念にしていることが、副市長本人からも聞いて良かった。その気持ちをずっと持ち続けていきたいと思えた。仕事を効率よく仕事をするには準備や勉強が大切だと改めて感じた。対話を通じて仕事の士気が上がった。道路に関する疑問について、副市長の意見を聞いて良かった。地元と役所、役所内の合意形成を図ることが私の仕事だと理解できた。

活動を振り返って

「対話の架橋」として4月から活動を始めて1年が経過しようとしています。

メンバーが活動を通して感じた“気づき”をご紹介します。

メンバーの気づき



行政総務課
東 薫子

好きな島田の○○：
▶加藤菓子舗の川根大福
▶焼旨

- 小さい対話の積み重ねにより、対話に参加した方の横のつながりのきっかけになっていけば良いなと思った。
- 「対話を目指していたが、一問一答になりがち」という課題があったため、3回目の牛尾副市長との対話の際に、副市長側からの質問を盛り込むことで、対話らしくなりお互いをより知るきっかけになったと感じた。
- 自身も同席することで、幹部職の考えを直接聞くことができたことは良い経験になった。例えば、今回の対話においては、仕事が溜まってきたら、書き出して優先順位をつけるなど、自分の働き方に生かせる考えもあったため、取り入れていきたい。

メンバーの気づき



課税課
小笠原 勇気

好きな島田の○○：
リバティの芝生広場

- アンケートの結果からも若手職員にとって幹部職員との対話の場を設けることは、仕事への向き合い方や考え方を見直すうえで効果的であることがわかった。
- 市長、副市長ともに話しやすい雰囲気を作ってくださっていたので、参加者も緊張しつつも安心して対話に臨めたと思う。
- 参加者を前回参加者による推薦にしたことで、自分自身が関わったことのない人との繋がりがより多く生まれたので良かった。
- 牛尾副市長との対話から、逆質問を取り入れ、より対話らしくなったと思う。
- 自分自身、副市長の話聞く機会がこれまでなかったため、良い経験となった。

メンバーの気づき



市民協働課
藤原 敬志

好きな島田の○○：
大井川花火大会

- たった1回1時間、1年に3回の対話の時間で、何か劇的に変わることはないかもしれませんが、市長や副市長との話の中で、これからの仕事や人生に活かせる“きっかけ”や、心に残る“言葉”が、ひとつでも見つけられれば、ありがたいと思います。
- 幹部職員と話をする機会はもちろん、普段関わることの少ない部署の職員同士が話す機会にもなり、そういう意味でも良い企画になったと思っています。
- 毎日の業務に追われている方、目の前の仕事のことしか考えられない方、自分が変わるきっかけを探している方に届けば幸いです。

メンバーの気づき



文化振興課
河西 智里

好きな島田の〇〇：
蓬萊橋897.4茶屋の
煎茶ソフトクリーム

実践なき理論は空虚であり、理論なき実践は無謀である（ドラッカー）

昨年度、藤原さんと小笠原さんと「早稲田大学マニフェスト研究所人材マネジメント部会」に参加し、「10年後の島田のありたい姿」に向けた変革ストーリーシートを1年間かけて作成しました。その論文の中で、まず職場の人間関係の質を高めるために、1年後に目指す状態と創り出したい変化について、私達は次のように考えました。

< 1年後に目指す状態 >

「幹部職員」と「幹部職員に接する機会が少ない20～30代職員」との対話機会の増

< 1年後に創り出したい変化 >

上下関係にある幹部職員と若手職員の対話機会の増加により、相互理解が深まり、さまざまな価値観に気づく。

そして、4月から、東さんを新メンバーに加えて、幹部職員と若手職員をつなぐ「対話の架橋」がスタート。染谷市長、萬屋副市長、牛尾副市長の三役と9人の若者の対話の機会を設定しました。今年度の実践的活動を振り返ると、昨年度の論文作成のために追い詰められていた状況から一転し、緊張感の中にも自由な発想が楽しめる対話活動となったと思います。

「継続は力なり」といいますが、継続するには楽しさが大事だなと感じているところです。



快く対話に応じてくださった、
染谷市長、萬屋副市長、牛尾副市長、
そして参加者の皆様に改めて感謝いたします。



今回で令和5年度の活動は終了です。
活動に興味のある方はお声掛けください！
次の“対話”もお楽しみに♪